

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成22年9月15日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 教育学研究科

職 名 教授

氏 名 川 崎 良 孝

事業区分	平成22年度・短期招へい助成	
招へいした研究者	所属・職名	ハワイ州立大学コンピュータ情報学部図書館情報学科・助教
	氏 名	安 里 のり子
研究課題名	日本の図書館界における知的自由の概念と公共図書館での検閲	
招へい期間	平成22年7月10日 ~ 平成22年8月8日	
招へい成果の概要	タイトルは「成果の概要 / 報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無	
会計報告	交付を受けた助成金額	400,000円
	使用した助成金額	400,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	渡航費・滞在費 400,000円 ----- ----- ----- ----- ----- -----

成果の概要 / 川崎良孝

ハワイ州立大学コンピュータ情報学部図書館情報学科の安里のり子助教授を、平成22年7月10日から8月8日まで、研究課題「日本の図書館界における知的自由の概念と公共図書館での検閲」で短期招聘した。

なお、教育学研究科では招聘外国人学者として認められ、研究環境としては教員と同等の扱いができ、また安里氏をサポートする講座事務補佐員を設け、十分な研究環境を準備できた。以下、来日中の活動も含めて成果を報告する。

・研究課題「日本の図書館界における知的自由の概念と公共図書館での検閲」

川崎と協議の結果、以下の2つの方向で研究を行った。

まず知的自由の概念および検閲事件などについては、ほとんどが文献調査でまかなえるとの認識のもと、事務補佐員の協力もえて、関係する文献の収集に努力した。とりわけ安里氏が関心を持っているいくつかの具体的な検閲事件については、網羅的な資料の収集につとめ、こうした目的は達成されたと思える。

いまひとつは、図書館における知的自由という概念は、ハワイ大学の図書館学科では教員が共有する共通の基礎的概念であり、それをもとに授業科目や授業自体が組み立てられている。こうしたアメリカの状況を視野に入れ、日本での図書館学担当教員について、担当教員の知的自由に関する意識、および提供する授業科目での知的自由の位置づけを、インテンシヴなインタビューによって聞き取り調査をすることにした。対象としたのは、京都大学、大阪教育大学、筑波大学、明治大学、実践女子大学、その他である。各大学の担当者から2時間ほどのインタビューを行い、それをテープにとった。およびさらなる確認事項などの問い合わせまで終了している。インタビューの対象は、教員が図書館における知的自由に大きな関心を抱いている大学に特化した。

なおこれと平行して、司書資格付与のための省令科目を意識したシリーズ物の教科書が日本図書館協会、東京書籍、その他から出版されている。そうした教科書を取り寄せ、その中で図書館における知的自由の扱われ方の分析も試みた。とりわけ、「図書館概論」、「図書館資料論」、「図書館サービス論」の教科書については、詳しく目をとおした。そうした主要テキストは購入し、帰米後に分析することになっている。

この部分については、生涯教育学講座の紀要などにまず調査結果を報告することになっている。

今回の招聘によって、安里氏は日本の図書館/図書館学教育における知的自由の状況にいつその理解を深めたと結論できる。なお、上記の研究がまとまった時点で、英語論文としてアメリカの学術雑誌などに掲載する予定である。

・新たな研究の開始

川崎は研究代表者として、科研(研究課題「批判的図書館史研究の構築」平成 21-23 年度)プロジェクトを吉田右子氏(筑波大学)、小林卓氏(実践女子大学)、三浦太郎氏(明治大学)と進めているが、次期の共同研究の研究課題として「図書館における知的自由の領域の構築」を取り上げることにした。安里氏の招聘を契機に、この次期プロジェクトには安里氏も参加することになり、すでに「図書館員と知的自由」、「図書館員の職場での知的自由」を担当することが決定している。今回の来日によって、単に既定の研究課題のみならず、今後の研究と国際的な対話の道が現実に関わったことも、大きな成果である。

以上のことから、安里氏を招聘した成果は十分に達成できたと思われる。安里氏自体の個人的研究のみならず、国際的な共同研究と研究者のネットワークが、これを契機にこれまで以上に展開していくことが期待できるし、それは現実になると思われる。

こうした点で、今回の京大財団からの助成には大いに感謝している。